

2025年度フィールドスタディ・地域活性化論実施報告(ホームページ掲載)

科目名	フィールドスタディC	教員名	中澤高志
実習先	大分県別府市・佐伯市		
実習期間	2025年8月4日(月)～8月7日(木)		
テーマ	地方都市の現場		

目的(実習のねらい):

別府市でのテーマ:「地方都市のグローバル化」

温泉観光地として知られた別府市は、多くの留学生を擁する大学の存在と、インバウンド観光の活発化によって、地方都市でありながらグローバル化を肌で感じることができるフィールドである。そこに身を置くことで、多文化共生社会とは何かについて考えてみたい。

佐伯市でのテーマ:「自らなりわいを創る」

「田舎暮らしは魅力的だが、仕事はどうする?」と考えるとき、どうしても「雇われて働く」という選択肢にとらわれがちである。しかし、佐伯市のような地方小都市でも、雇われるのではなく、自らなりわいを創り出すことで、日々自分らしく暮らしている人々が現れ始めている、そういう人たちのバイタリティ溢れる生きざまに接することで、オルタナティブな生活の可能性について考えてみたい。

実習報告：

8月4日（月）

大分県別府市は、古くから知られた温泉観光地である。留学生を積極的に受け入れている大学が2000年に開学したことによって、数多くの留学生が暮らすようになった。これに近年のインバウンド観光の伸びが加わって、別府市は多文化共生・国際観光都市として知られるようになった。

まずは別府市の多文化共生に長くかかわっておられる大塚さんに、別府市の多文化共生の現状について説明してもらった。わかりやすいパワーポイントによる説明によって、ムスリムの増加に伴って、イスラームの教義に沿った土葬墓地が必要とされる一方で、その建設をめぐる住民との対立があることを知る。

午後、多文化共生の象徴的な場所である別府マスジド（モスク）を訪れ、まずは礼拝を体験。その後、別府ムスリム協会の代表である立命館アジア太平洋大学のカーン教授から、別府でのイスラームの基本的事項や別府でのムスリムの生活についてお話を伺う。対面でのコミュニケーションは、他者理解の基本。短時間ではあったが、イスラームを身近に感じることができた。



夕方、鉄輪に移動。温泉につかり、地獄蒸し料理を賞味。みんなでスーパーに買い出しに行つて、自炊するのが楽しい。宿泊は鉄輪らしい湯治宿。



8月5日（火）

鉄輪から貸し切りバスで佐伯に移動。昼食後に、船頭町のリーダーの指導の下、ワークショップを経験した。そのあと、船頭町のリノベーションの現場を案内してもらった。夜は廃業した歯科医院をリノベートしたコミュニティカフェを会場に、船頭町の友人たちが交流会を開いてくれた。



8月6日（水）

終日グループに分かれて調査。各グループの学生は、なりわいを創っている3人に、自分たちでアポイントを取り、佐伯市内をぐるぐると調査して回る。私も1つのグループについていった。この写真はひじきの加工場の見学。



夕方には、ネイチャーガイドをしている友人の案内で、佐伯の城山に上る。お目当はムササビをみること。実際にムササビが飛翔する場面を目にすることができた。



8月7日（木）

10分ほどの船旅で大入島へ渡り、最新鋭のカキの養殖を見学。天気が悪く、船で海に出られなかったのが残念。



最後のまとめの回では、参加した学生が一人一人自分の言葉で、フィールドスタディで学んだことを語る。毎年毎年、学生引率はくたびれる仕事だが、やってよかったと実感する時である。

成果を発表する
明治大の学生



佐伯で自営業学び
明治大生が発表会
2泊3日でゼミ実習

【佐伯】地方で頑張る経営者の考え方を学ぼうと、佐伯市で実習をした明治大の学生が7日、同市船頭町の住吉御殿で成果発表会を開いた。

地方のなりわい、自営業者の研究を続ける中沢高志経営学部教授のゼミで、毎夏、同市を訪れて聞き取り

などを続けている。今夏は学生10人が、5日から2泊3日で取材や町づくり研修などをした。

計9人の経営者から話を聞いた学生たちは、それぞれの店、事業所の現状、経営方針、生き方、課題などについて感想を踏まえながら発表。学生をサポートした地元関係者や県、市職員らも訪れ、若い世代の意見を聞きに耳を傾けた。

(安部亮)

2025年8月14日大分合同新聞

成果:

事前学習から実習、そしてレポート作成までの、すべての過程において、学生は多くのことを学んだ。地方都市の多くは、人口減少に直面し、地域経済にも明るい話題は少ない。それでも、自らなりわいを創って生きている人たちは、とても輝いている。学生の多くは東京でビジネスマンになる道を歩むのだろうが、そうではない生き方もあることを学んでくれたようだ。それもこれも、毎年フィールドスタディを支えてくれる人たちのおかげです。これからもよろしく願いいたします。

以上